

会 議 録

1 会議名

平成28年度 第8回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）市議会議員と正副会長との意見交換会について（公開）

（2）和田区の地域課題について（公開）

3 開催日時

平成29年3月7日（火） 午後6時30分から午後8時2分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第2・3研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）、橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、泉 幸雄、
市橋邦夫、岩澤 弘、植木泰行、笠原完治、小林春男、土屋史郎、
平原 匡

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、榎島係長、小林主事

8 発言の内容

【榎島係長】

・高橋委員、前川委員を除く12名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：小林委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—市議会議員と正副会長との意見交換会について—

【水澤会長】

次第3報告(1)「市議会議員と正副会長との意見交換会について」に入る。

2月13日に、市議会議員と正副会長との意見交換会が春日謙信交流館で開かれ、私と橋本副会長が参加したので、まず私から内容について報告する。

市議会議員と地域協議会との意見交換会は、初の試みであった。この日は、合併前上越市の地域協議会が対象で、旧13町村の地域協議会の分は翌日14日に開かれた。ただ柿崎区が都合により13日に参加し、我々と同じ南部まちづくりセンター所管の和田区、高田区、金谷区、三郷区のグループに入った。また、同じグループに市議会議員が5名入った。

市議会議員からは、地域協議会との関係の持ち方に関する意見が出された。地域協議会のことをよく知りたいということから、この会が開催されたのだと思う。今後何回かあると思う。議員からは、地域協議会がふだん何をしているかを見て知ってほしいと思う。活発に活動している地域協議会があるし、我々もそのような協議会を参考にしたい。

その中で、南部まちづくりセンター所管の4区で交流を持ちたいという意見が出た。特に高田区は協議事項や諮問事項も多く、和田区とは違う様子ようだ。委員は地域が住みやすいものとなるよう頑張っているが、どうしていったらよいかという点で他の区への興味があるようだ。そこで、まず正副会長で意見交換をすることになった。今後は、お互いの地域協議会同士の交流会が開かれたらよい。

金谷区は区域が広いため、地域へ出向いて地元の方から傍聴してもらおう出張協議会という取組をしていると聞いた。地域を見て、課題を探すことも一つだと感じた。

地域協議会によりいろいろな取組をしているし、地域ごとに課題も違うので、他

の地域協議会の様子を聞いたり交流を深めたりして、和田区地域協議会に役立てられればよい。

橋本副会長に、報告を求める。

【橋本副会長】

金谷区の出張協議会の取組は、地域に出向くことを重点的に考えていることがわかり、参考になった。

地域協議会同士の交流があったらよいと感じたし、他の正副会長もそう考えていたようだ。

市議会議員からは、もっと地元足を運び、地元に着した取組をしてもらいたいと思った。

【水澤会長】

まずは、正副会長同士で交流を持ち、その後は個々に金谷や三郷などと全体の交流ができればと思う。

—和田区の地域課題について—

【水澤会長】

次に、次第4議題（1）「和田区の地域課題について」に入る。

前回も、グループに分け地域課題の議論をした。概要は資料No.1のとおり。

本日はこれを踏まえ、グループ討議を続ける。

事務局に説明を求める。

【榎島係長】

- ・今後、全体で地域課題を協議することが目的、そのためにテーマの絞り込みを
- ・最終的には自主的審議事項に取り上げていきたいので、そのように考慮を
- ・本日で絞り込みを終え、次回の会議から全体協議に入る

【水澤会長】

グループ討議に入る。終了後、グループごとに全体発表を。

—グループ討議—

【水澤会長】

Cグループから順にそれぞれ3分程度で発表を。

【泉委員】

和田地区にどのような組織があるかを知り、それらの組織がまとまって話し合う場を作り組織化していくことが必要ではないか。地域協議会が問題提起しても、事業を執行することができないため、今ある組織をどのように活用していくか、ということになる。そのためには、今、和田地区にどのような組織があるかを把握する必要があると思う。

和田地区振興協議会が、全体的に網羅している。そこに入っていない組織から参加してもらい意見交換をしていけば、横の連携が取れる。それぞれの組織の中からリーダーを発掘していかなければいけないとも考える。その中で意見交換をしていくことが大切だろう。

現在の振興協議会は、新幹線開業後は活動が停滞しているが、地域の問題について議論ができる振興協議会に変わってもらうようお願いしていく。あるいは組織を作っていくことに取り組んでいってはどうか。

全体的な組織を作ったときには、現在、社会福祉協議会が公民館で実施している高齢者向けサロンを担当するリーダー育成を考えるべき。そのためには福祉関係の組織を振興協議会の中に立ち上げるべきなのか、あるいは文化的な組織はどうか。体育協会があるから、振興協議会の中で体育を取り入れていくのか。

このように、いろいろな分野を集約していけば、振興協議会によって、和田地区の振興や発展につなげていけるのではないかと話した。

我々は今、議論にあたり暗中模索なところがあることから、活発に活動している地域協議会、先進的な地域協議会に出張し学んでこようという話もした。

【市橋委員】

雪をテーマに話した。

地域協議会として、どのような組織にお願いしたら、和田地区を一緒に盛り上げ

ていけるイベントができるか。大和倶楽部（くらぶ）や和田地区商工会に対し、イベントの案を提案し話し合いができる場を作っていきたい。

地域協議会としてある程度の計画を作り、イベントの見学者を募り、見学により関心を持った人からイベントの仲間に入ってもらおうという方法で、参加者を募る。

まちづくり市民大学に自主的に参加し、学び、それにより地域協議会の中で活発に話し合いをする。

勉強を兼ねて、イベントの視察をする。みなさんの賛同が得られれば、雪室の見学を6月に行いたい。

雪のまつりがある地域の地域協議会と、交流を持ち、どのように進めれば地域の皆さんが参加してもらえるイベントになるかを学び、イベントをしてもらう商工会などにアドバイスをしたい。

和田地区の皆さんに、地域協議会ではこのように進めたいということを示し、多くの参加があるようにPRしていきたい。

【笠原委員】

Bグループは、和田の歴史書を作り直したいということで話し合った。現在既に、和田の歴史を作る会があり、委員からも2名が参加していて、作業を進める段階に来ている。和田の歴史を、未来や後世に伝えていきたいというねらいがある。

今、和田の歴史書は知る限りでは、和田村史がある。これは難解なことから、和田の歴史を作る会では、これをベースにここから取り上げたり、足りないものは付け加えたりして、作業を進めている。

和田は、石器時代から祖先が住んでいたが大きな戦乱に巻き込まれなかったことから、近代前までは大きな歴史上の動きはない。むしろ明治以降に大きなできごとがあった。和田村史は昭和8年までしか書かれていないので、それ以降現代までの歴史を載せていきたい。

平成29年度は調査、講師、資料、古文書解読に概算50万円、平成30年度には、原稿、校正、講師などに経費がかかる。

3～4年かけて歴史書を完成させる。和田区に何部配布できるか。今は、来年度の提案に向けて検討している。市のOBである学芸員に主幹を依頼予定。財源がな

いため、地域活動支援事業を活用したい。我々地域協議会としては、この歴史を作る会に提案段階から関わっていく。

中ノ俣の郷土史が、一番最近作られた。写真や図面があり、330ページくらいでかなり重く細かいところまで書かれている。地域の皆さんが中心になって書かれたものであり、我々もこれを参考に進めていきたいし、関わっていく。

【水澤会長】

Aグループは雪、雪室見学、Bグループは和田の歴史と文化を後世に伝えていく、Cグループは区内の組織を認識することといろいろな地域協議会の活動を学ぶ、このように集約された。

次回からこれらについて議論を進めることを諮り、委員全員の了承を得る。

—事務連絡—

【水澤会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

- ・ 次回協議会：4月20日（木）午後6時30分～ ラーバンセンター
- ・ 地域協議会だより3月1日号を発行済
- ・ 来年度の地域活動支援事業に関する資料を郵送済
- ・ 滋賀県立大学による「地域自治の将来に関する意識調査」結果報告書を配布

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。